

兵庫県のナガゴミムシ類 (1)

森 正人¹⁾

はじめに

昨年からはじめられたコロナ騒ぎの終わりが見えず、野外での採集よりもステイホームでの研究や標本作成、あるいは原稿の執筆する方が増えたせい、本誌への投稿量も多くなっているらしい。久しぶりに掲載できそうなので、県内のナガゴミムシ類の記録や標本データを整理しておきたい。ナガゴミムシ類は分類の困難なグループが含まれており、まだ自身でも十分に認識できていない部分がある。皆様のご指導やご指摘をお願いしたい。

まず、ナガゴミムシ類の上位分類単位である亜科と族の扱いについて、これまでは田中(1985)の分類体系を踏襲することが多かったが、将来の目録作成を念頭に置いて、ここでは基本的にLöbl & Löbl(2017)の分類体系に沿うことにした。また、種の学名についてもこれに準拠したが、配列については出来るだけ田中(1985)に従った。

Löbl & Löbl(2017)では、ハンミョウ類やオサムシ類、ゴミムシ類のほとんどをオサムシ科 Carabidae として位置付け、その下にいくつかの亜科を認めている。田中(1985)の Pterostichinae (ナガゴミムシ亜科)は、ここでは Harpalinae (和名としてはゴミムシ亜科またはゴモクムシ亜科)のなかの Abacetini (ツヤナガゴミムシ族)、Melamchitonini (トックリモドキナガゴミムシ族)、Morionini (クチキゴミムシ族)、及び Pterostichini (ナガゴミムシ族)として位置づけられている。兵庫県産としてはツヤナガゴミムシ族とナガゴミムシ族の2族である。

いつものとおり、掲載記録は種ごとに文献記録と標本記録に分け、文献記録については記載された県内の記録地名と出典情報を年代順に明記した。標本記録については、筆者が実検したものや手許にある県内標本のなかから、原則1産地1例とし、採集頭数・採集地・採集データを明記した。採集者については、筆者以外のものは採集者名を明記し、筆者採集のものはこれを省略した。生息環境や生態情報、全国分布、基産地情報などについても知り得た範囲で記述した。

兵庫県産のナガゴミムシ類のうち、山地性の広義ナ

ガゴミムシ亜属については、森(2000)で一応整理されているので、今回はそれ以外の種類の掲載とした。広義ナガゴミムシ亜属については追加種もあるので、次回以降に掲載を予定している。兵庫県産のナガゴミムシ類は以下の2族9属である。

各種解説

ツヤナガゴミムシ族 Tribe Abacetini

日本産は3属に整理され、兵庫県は次の1属である。なお、兵庫県での記録はまだないが、所属が不安定だったヒラタマルゴミムシ属 *Cosmodiscus* はこの族に位置づけられている。

ツヤナガゴミムシ属 Genus *Abacetus*

1. ホソツヤナガゴミムシ *Abacetus leucotelus* Bates, 1873

【文献記録】Kobe city Pond Osara[吉松慎一ほか, 2018].

【標本記録】2exs, 加西市青野ヶ原, 16-VII-1994; 35exs, 加西市段下町, 5-X-2003; 1ex, 加西市野田池, 9-VIII-2003; 1ex, 小野市福岡町女池, 29-VI-2014.

基産地は長崎と中国(揚子江)。日本では本州、九州、南西諸島に分布するが記録は少ない。県内での分布は局地的で、播州平野の丘陵地周辺だけで確認されているが、最近はあまり見られなくなった。生息環境は植生が比較的豊かなため池など止水域の水際に限られるようであるが、体長は4.5mm前後と小さいので、野外ではある種のミズギワゴミムシ類のように見える。

2. ヨツボシツヤナガゴミムシ *Abacetus tanakai* Straneo, 1961

【標本記録】9exs, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018.

基産地は神奈川県平塚。日本特産種で本州、四国、九州に分布している。兵庫県では従来記録が無く、長い間探し求めていたが、県西部の千種川下流域の河畔林脇でようやく見付けることが出来た。

筆者の手元には利根川(茨城県)、揖斐川(岐阜県)、相野谷川(三重県)、紀ノ川、富田川、太田川、熊野川(和歌山県)、仁淀川、四万十川、黒川(高知県)、北川(宮崎県)などの標本があるが、いずれの採集場所も自

¹⁾ Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

然環境が豊かで比較的規模の大きな河川の河川敷であり、このような環境に強く依存していることが示唆される。船本ほか(2010)は多摩川において、本種を河川敷の池のほとりにあるアズマネザサ群落内や林縁の落葉下から採集し、林床の湿り気が重要である可能性を述べている。また、危険を察知すると土中に潜り込む行動を観察している。また、大塚(2005)は広島県太田川の河川敷の林床にある湿った落葉下で、長期間にわたり多数を観察しており、本種の生息環境事例として報告している。辻(2015)は岩国市御庄川ダム上流での観察結果として、河川敷のモウソウチク林のやや湿り気のある砂地林床で、昼間に活発に歩行する個体を観察し、地表のひび割れや隙間を身を隠す場所として利用すること、夜間は活動していないことを報告している。

筆者の採集経験でも、河畔林の林床や落葉下での確認事例が多いのだが、河畔林はヤナギ林や竹林など様々で特定の植生に依存する様子は感じられなかった。和歌山県太田川では河川敷の開放的な草地環境でも観察している。また、高知県仁淀川では、洪水直後の河畔林内で、他の生きものが流されて全く見られなくなった林床で、本種だけが砂地の落葉下で普通に観察された経験があり、これが強く印象に残っている。攪乱時には、辻(2015)が報告しているように、地表のひび割れや隙間を積極的に利用し、河畔林の土中を垂直方向に避難・移動する可能性もあると推察している。

ナガゴミムシ族 Tribe Pterostichini

日本産は8属に整理され、兵庫県ではそのすべてが確認されている。

ムネミゾマルゴミムシ属 Genus *Caelostomus*

日本からは1種が知られており、県内にも分布している。

3. ムネミゾマルゴミムシ *Caelostomus picipes* (MacLeay,1825)

【文献記録】氷上郡[山本義丸,1958];川西市大和[仲田元亮,1979];氷ノ山[高橋匡,1982];宝塚市売布ガ丘[小田中健,1993];Tanba Ikusato[吉武ほか,2011].

【標本記録】1ex,朝来市生野白口,23-VII-2007;1ex,神戸市道場生野,3-V-2006;1ex,神戸市道場,4-VII-2006.

日本では北海道(伊藤,1992)、本州、四国、九州、南西諸島に広く分布しているが、県内での生息地や個体数はあまり多くない。樹林性で樹幹の隙間や樹皮下などで見られる。ムネミゾナガゴミムシは異名。*C.japonicus* Tschitscherine,1898は本種のシノニムとされている。

ツヤムネマルゴミムシ属 Genus *Oxyglychus*

日本からは1種が知られており、県内にも分布している。

4. ツヤムネマルゴミムシ *Oxyglychus laeiventris* (Bates,1883)

【文献記録】氷上郡[岸田剛二・辻啓介,1975];扇ノ山[高橋匡,1982];川西市大和(ライト)[安井・初宿,2012]

【標本記録】1ex,波賀町赤西,6-VI-1992;1ex,波賀町氷ノ山,23-VII-1989;1ex,養父市杉が沢,1-VI-2012;1ex,宍粟市坂の谷,6-VIII-2016;1ex,丹波市市島町妙高山,16-VIII-2018;2exs,姫路市夢前町我孫子(モミ倒木内),8-III-2008.

日本特産種で、北海道(松本ほか,1988)、本州、四国、九州に広く分布している。本種も樹林性でシデ倒木の樹皮下などで見られる。前種よりもやや標高の高い地域、あるいはより良好な樹林に生息する気がする。ツヤムネナガゴミムシは異名。

マルナガゴミムシ属 Genus *Myas*

日本では2種が知られており、県内ではともに記録がある。

5. ムラサキオオゴミムシ *Myas (Trigonognatha) coreanus* Tschitscherine,1895

【文献記録】香住,温泉[高橋匡,1982]

日本では北海道、本州、四国、九州に広く分布している。生息環境はよく把握されておらず、灯火での確認事例が多い種である。県内では少ない種と思われ、筆者は未採集。カクムネマルナガゴミムシは本種の異名。

6. アカガネオオゴミムシ *Myas (Trigonognatha) cuprescens* Motschulsky,1858

【文献記録】篠山町[岸田剛二・辻啓介,1975];神戸町砥峰高原[八木剛ほか,2003];川西市妙見山上[仲田元亮,1979];川西市笹部,妙見山[安井・初宿,2012]

【標本記録】1ex,新温泉町上山高原,2-IX-2016;1ex,豊岡市日高町神鍋高原,11-X-2017;1ex,養父町新津,28-X-1995;2exs,波賀町赤西,2-IX-1995;1ex,養父市氷ノ山800m,24-VII-2004;4exs,大屋町氷ノ山1270m,13-VIII-1995,春沢圭太郎採集;1ex,佐用町ちくさ高原,19-VII-1997;1ex,大屋市新津,28-IX-1997;1ex,相生市三濃山,23-X-1999;1ex,神河町砥峰高原,30-VIII-2005;1ex,神河町千町峠,27-VIII-2005;4exs,篠山町鏝市,24-IX-1995;1ex,川西市一庫ダム,27-IX-2000;1ex,神戸市道場,19-IV-2008.

本州、四国、九州に分布し、樹林性で林床に生息する。県内では広く分布するが、個体数は多くはない。地域による色彩や大きさに変異があり、中部山岳地帯などの高標高地で得られるやや小型で光沢の強いものを、以前はキンイロマルナガゴミムシ *M. aurescens* (Bates,1883) として区別されていたが、現在では本種のシノニムとして扱われている。オオマルナガゴミムシは本種の異名。

オオゴミムシ属 Genus *Lesticus*

日本産は次の1種である。

7. オオゴミムシ *Lesticus (Triplogenius) magnus* (Motschulsky, 1861)

【文献記録】神戸市御影 [関公一, 1934]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 川西市見野, 大和, 笹部, 横地 [仲田元亮, 1979]; 日高町, 出石町 [高橋匡, 1982]; 宝塚市売布ガ丘, 安倉 [小田中健, 1993]; 洲本市先山, 安平町 [高橋寿郎, 1998]; 加美町市原 [兵庫昆虫, 2001]; 川西市大和, 笹部, 見野, 横路, 甲東園, 御影, 神戸道場, 佐用町大撫山, 多可町奥山, 山崎町岩田神社, 猪名川町杉生新田 [安井・初宿, 2012].

【標本記録】1ex, 香住町小原, 10-VII-2001; 3exs, 加美町妙見山, 8-VIII-1998; 1ex, 新宮町北村, 10-X-2015; 3exs, 新宮町栗栖川, 13-V-2012; 1ex, 社町西古瀬, 7-Feb. 1999; 1ex, 小野市久茂町加古川, 2-X-2011; 1ex, 赤穂市有年, 3-XI-2014; 2exs, 姫路市飾磨, 27-IX-1989; 1ex, 姫路市青山, 16-XI-2018; 1ex, 三木市戸田, 18-XI-2019; 1ex, 神戸市藤原台, 25-VII-1987; 1ex, 姫路市家島本島, 19-VII-1989.

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布する。やや乾燥した場所に多い印象があり, 離島などでも記録が多い。茅野 (1969) によると, 本種は夜行性でウスカワマイマイを積極的に捕食することが報告されている。

ルイスオオゴミムシ属 Genus *Trigonotoma*

日本産は次の1種である。

8. ルイスオオゴミムシ *Trigonotoma lewisii* Bates, 1873

【文献記録】Hiogo [Bates: 1873]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 川西市大和, 笹部 [仲田元亮, 1979]; 佐用町大撫山, 山崎町岩田神社, 洲本市先山, 川西市笹部, 大和, 姫路市上砥堀, 龍野市菖蒲谷 [安井・初宿, 2012].

【標本記録】12exs, 豊岡市日高町神鍋高原, 28-VIII-2011(N); 1ex, 佐用町大撫山, 1-X-1994; 1ex, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018; 2exs, 洲本市先山, 30-I-2010.

日本では本州, 四国, 九州に広く分布している。本種も島などの乾燥地に多く, オサ堀りなどで得られることも多い。灯火にもよく飛来する。ルイスナガゴミムシは本種の異名。

キバナガゴミムシ属 Genus *Stomis*

日本産は3種で兵庫県では次の1種である。

9. キバナガゴミムシ *Stomis (Stomis) prognathus* Bates, 1883

【標本記録】1ex, 三田市川原, 10-IV-2021; 1ex, 西宮市武田尾, 23-XI-2000; 1ex, 川西市一庫ダム, 23-V-2004; 1ex, 神戸市道場, 3-I-2005.

原産地は箱根, 日光。本州と四国に分布する。兵庫県産は亜種 *japonicus* Straneo, 1953 (ホソキバナガゴミムシ) とされ, 大阪府箕面が原産地である。樹林性で低山

地から山地の林床やガレ場などで見られる。冬季に, 岩の隙間などから大量に見つかったことがあり, 朽木内でも越冬している。

キンナガゴミムシ属 Genus *Poecilus*

日本産は3種で兵庫県では次の2種である。この属名は *Pterostichus* 属の亜属として扱われることもある。

10. キンナガゴミムシ *Poecilus (Poecilus) versicolor* Sturm, 1824

【文献記録】氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 豊岡市 [高橋匡, 1982]; 垂水, 甲東園, 加古川河口, 宝塚 [安井・初宿, 2012].

【標本記録】1ex, 豊岡市神鍋高原, 13-VIII-2012; 22exs, 養父市ハチ高原 950m, 30-VII-2011; 1ex, 宍粟市音水湖, 11-VIII-2016; 5exs, 御津町 (揖保川) 7-VII-2003; 2exs, 加古川河口, 3-ix-2013; 1ex, 赤穂市千種川河口, 11-X-2014; 5exs, 加古川市神野, 10-IX-2017; 2exs, 川西市一庫, 7-X-2003; 2exs, 三原町鶴鷗羽山, 6-X-2001.

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布する。日本産本種の種小名の扱いに関しては混乱がみられ, これまでにも *coerulescens* (Linnaeus, 1758) や *encopoleus* Solsky, 1873, *planicollis* (Motschulsky, 1860), あるいは *gatus* Daies, 2004 などが使用され, 現在でも暫定的である。今後も分類学的な検討が必要 (吉松ほか, 2018) とされている。低地では河川周辺に見られるが, 標高の高い養父市鉢伏高原などでは乾燥した草地での個体数が多く, 種として異なるのかもしれない。

11. オオキンナガゴミムシ *Poecilus (Poecilus) fortipes* Chaudoir, 1850

【文献記録】扇ノ山 [高橋匡, 1982]; 神河町砥峰高原 [八木剛ほか, 2003]; 甲東園 [安井・初宿, 2012].

【標本記録】1ex, 養父市八鹿町杉ヶ沢高原, 28-VIII-2011; 1ex, 養父市鉢伏高原, 12-VIII-1993; 13exs, 神河町砥ノ峰高原, 25-V-2007.

本種についても学名や和名が混乱している。中根 (1963) では大型の *Poecilus* 属にオオキンナガゴミ *P. fortipes* とエゾキンナガゴミ *P. samurai* の2種を認めているが, 土生・馬場 (1972) は *samurai* を *fortipes* のシノニムとして扱い, その後中根 (1979) もこれに従っている。一方, 田中 (1985) では *samurai* (*Pterostichus* 属として扱う) だけを掲載し, 和名をなぜかオオキンナガゴミとした。また, この種には2種以上が含まれる可能性を指摘しているが, この扱いがその後長く踏襲されている。

県内で得られる個体は, 背面がわずかに金属光沢を含む黒色で, 前胸背の最大幅が後半にあり, 後角がやや角張ること, ♂の後肢脛節の後半途が膨れること, ♀

の上翅に光沢を欠くことなどの特徴から, fortipes であろうと考えられた。

県内では中北部の草地環境で見られるが分布は局地的である。なお, 岡山県や長崎県の草地環境で得られた個体も同じものと判断された。日本では北海道, 本州, 九州に広く分布することになる。北海道では本種と samurai エゾキンナガゴミの少なくとも 2 種が生息している。

本種の分類検討に関しては, 森田誠司氏(東京)や堀繁久氏(札幌)に比較標本や文献資料を頂き, 大変参考になった。

ナガゴミムシ属 Genus *Pterostichus*

大きな属で日本では 245 種程度, 兵庫県では 27 種が記録された。亜属の扱いは流動的で安定していない。なお, 山地性の広義ナガゴミムシ亜属については, 次回以降に掲載する。

1 2. ヒロムネナガゴミムシ *Pterostichus (Argutor) dulcis* Bates, 1883

【文献記録】神戸市舞子浜 [安井・初宿, 2012]

日本では北海道, 本州, 九州(西田ほか, 2000)に分布する。関東地方では比較的良好に見られるが, 西日本では生息地が少ない。兵庫県周辺では, 滋賀県の琵琶湖周辺の湿地や放棄水田などで見られ, また岡山県北部の冷涼な湿原地域での採集経験があるが, 県内ではまだ発見できていない。次種に少し似ているがより大型で, 名前のおおりに前胸背が大きく特徴的である。従来は *Eolagarus* 亜属とされていたが, 上記に変更されている。ツノアカナガゴミムシは異名。

1 3. アシミゾナガゴミムシ *Pterostichus (Argutor) sulcitaris* Morawitz, 1862

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 扇ノ山, 氷ノ山 [高橋匡, 1982]; 篠山町笠坊, 川西市大和 [安井・初宿, 2012]

【標本記録】4exs, 新温泉町古市岸田川, 2-IX-2016; 2exs, 宍粟市音水湖, 29-VII-1991; 2exs, 神戸町峰山高原, 10-V-2014; 2exs, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018; 1ex, 明石市大久保, 7-IV-1991; 1ex, 三田市羽束山, 17-VI-1990; 1ex, 神戸市八多, 18-V-1989; 2exs, 神戸市道場武庫川, 26-VI-1991; 1ex, 神戸市道場, 22-IV-1995; 1ex, 神戸市藍那, 7-VI-2002; 2exs, 三原町論鶴羽山, 6-X-2001; 2exs, 三原町上田池, 6-X-2001。

北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布し, 各地で個体数が多く普通に見られる。水辺の草間に多いが他の環境にも出現する。以前は *Lagarus* 亜属とされていたが, 上記に変更された。

1 4. トックリナガゴミムシ *Pterostichus (Badistrinus) haptoderoides japonensis* Lutshnik, 1922

【文献記録】氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 宝塚市安倉 [小田中健, 1993]; 猪名川町 [安井・初宿, 2012]

【標本記録】10exs, 養父市ハチ高原, 28-IV-2012; 1ex, 青垣町(加古川), 2-X-2010; 5exs, 御津町(揖保川), 7-VII-2003; 12exs, 加古川市野口町, 21-V-2007; 3exs, 加古川市八幡町(加古川), 14-VII-2011; 10exs, 稲美町六軒屋池, 6-X-2007。

名義タイプ亜種は極東や韓国, 中国北部に分布し, 日本産は上記亜種として区別されている。日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。北日本では個体数が多いが, 県内では比較的少なく, 分布がやや局地的となる。主に河川周辺で見られる。従来は *Eurythoracana* 亜属とされていたが, 上記に変更されている。

1 5. ナガサキヒメナガゴミムシ *Pterostichus (Badistrinus) procephalus* Bates, 1873

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 氷ノ山 [高橋匡, 1982]; 三原郡福良ほか [高橋寿郎, 1998]; 神河峰高原 [八木剛ほか, 2003]; 多可郡中町 [松尾隆人, 2003]; 川西市大和, 神戸市東垂水, 甲東町砥園, 猪名川町馬場, 川西市笹部 [高橋敏, 2012]; Kakogawa Hiraoka-cho Shinzaike [吉松ほか, 2018]。【標本記録】1ex, たつの市揖保川, 5-IV-2016; 1ex, 加古川市加古川河口, 4-IX-2011; 1ex, 加古川市神野(加古川), 10-IX-2017; 1ex, 姫路市家島町家島本島, 5-IV-2019。

日本特産種で, 本州西部や九州などで記録されているが, 沖縄本島(笠原, 1985)や東京都多摩川(山本ほか, 2007)の記録も存在する。県内では播州地域で時折見つかる程度である。従来は *Pledarus* 亜属とされていたが, 上記に変更されている。本種に近縁な種として *Plutschniki* Jedlicka, 1962(オオサカヒメナガゴミムシ)が淀川原産で記載されているが, 本種との関係がよくわからない。

1 6. コホソナガゴミムシ *Pterostichus (Phonias) longinquus* Bates, 1873

【文献記録】Hiogo [Bates, 1873]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 宝塚市安倉 [小田中健, 1993]; 淡路三原町, 一庫, 神戸市舞子, 高砂市加古川, 宝塚市, 川西市大和 [安井・初宿, 2012]; Tanba Ikusato [吉武ほか, 2011]; Kakogawa Shinzaike [吉松ほか, 2018]

【標本記録】11exs, 城崎町桃島池, 8-VII-1998; 3exs, 上郡町千種川, 3-XI-2014; 2exs, 加古川市, 20-Jan.1996; 2exs, 稲美町, 4-IV-1999; 2exs, 姫路市の形海岸, 18-IX-2011; 8exs, 稲美町六軒屋池, 6-X-2007; 5exs, 加西市段下町, 2-X-2011; 4exs, 小野市来住町, 10-VI-2012; 1ex, 吉川町, 9-IX-1994; 1ex, 小野市青野ヶ原, 29-IX-2013; 1ex, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018; 2exs, 三田市香下, 6-X-2000; 2exs, 洲本市柏原山, 11-XI-2001。本州, 四国, 九州に広く分布し, 個体数も一般に多

い。河川やため池などの水辺周辺に見られる。従来は *Argutor* 亜属とされていたが、上記に変更されている。

1 7. オオナガゴミムシ *Pterostichus (Platysma) eschscholtzii* Germar, 1823

【文献記録】川西市大和 [仲田, 1973]; 津名郡津名町大町 [高橋寿郎, 1998]; 甲東園 [安井・初宿, 2012]

【標本記録】8exs, 養父市八鹿町宿南 (円山川), 24-IX-2011; 2exs, 籠野市籠野橋 (揖保川), 7-II-2009; 2exs, 三木市美囊川, 13-III-1998; 4exs, 赤穂市千種川, 9-XII-2000; 30exs, 加古川市上荘町, 4-JAN.2009; 3exs, 揖保川町野田 (揖保川), 16-X-2011; 2exs, 御津町 (揖保川) 7-VII-2003; 9exs, 赤穂市中山 (千種川), 9-XII-2000; 1ex, 加古川市神野, 10-IX-2017.

大型種で本州, 四国, 九州に分布し, 河川周辺で見られる。従来使用されていた *fortis* Morawitz, 1862 は *eschscholtzii* のシノニムとされている。

1 8. オオクロナガゴミムシ *Pterostichus (Eosteropus) japonicus* (Motschulsky, 1861)

【文献記録】Hiogo [Bates, 1873, *P. tropidurus* として]; 豊岡市ほか [高橋匡, 1982]; 宝塚市安倉 [小田中健, 1993]; 洲本市安乎町 [高橋寿郎, 1998]; 甲東園, 加古川, 猪名川 [安井・初宿, 2012]; Kakogawa Hiraoka-cho Shinzaike [吉松ほか, 2018].

【標本記録】2exs, 加西市段下町, 5-X-2003; 1ex, 尼崎市善法寺町, 13-X-2012; 2exs, 小野市 (加古川), 15-VIII-2012; 3exs, 御津町 (揖保川) 7-VII-2003; 1ex, 加古川市神野, 10-IX-2017.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。ながらく *P. prolongatus* Morawitz, 1822 とされていたが, Morita (2007) によって上記の種小名に変更されている。県下では平地から丘陵地の河川周辺などで確認されている。

1 9. ヒメホソナガゴミムシ *Pterostichus (Pseudomaseus) rotundangulus* Morawitz, 1862

【標本記録】2exs, 加古川市 (加古川), 4-IV-1993; 10exs, 稲美町六軒屋池, 6-X-2007; 1ex, 御津町 (揖保川), 7-VII-2003.

北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布するが, 県下では少ない。河川やため池周辺で見つかっている。従来, *Melanius* 亜属に含まれていたが, 現在は表記の亜属として扱われている。

2 0. ムナビロヒメナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) straneoi* Habu, 1958

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 扇ノ山ほか [高橋匡, 1982]; 川西市舎羅林山, 宝塚市雲雀ヶ丘, 佐用町大撫山, 川西市笹部 [安井・初宿, 2012]. (以上はマルムネヒメナガゴミムシ *P. latemarginatus* として記録されている)。

【標本記録】1ex, 豊岡市日高町蘆武岳, 1-IX-2016; 1ex, 篠山

市後川新田, 5-III-2017; 1ex, 夢前町坪, 25-IV-1999; 1ex, 姫路市雪彦山, 24-XII-1984; 1ex, 西宮市武田尾, 25-X-1997; 1ex, 神戸市丹生山, 30-III-2003; 4exs, 三原町論鶴羽山 250m, 30-X-1999; 1ex, 洲本市柏原山 400m, 27-X-2001; 1ex, 洲本市由良立川, 13-III-2011, 新居悟採集; 2exs, 南あわじ市沼島, 8-IV-2017.

マルムネヒメナガゴミムシ *P. latemarginatus* (Straneo, 1936) とされた種類は, 本種のシノニムとして扱われている。本種は福岡県産で記載された種で, 本州, 四国, 九州に分布するとされる。なお, 本種以降の *Rhagadus* 亜属は分類が難解で, 今後も分類変更の可能性が高い。

2 1. アワジヒメナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) ishii* Morita, Kurosa & Mori, 2009

【文献記録】Mt. Yuzuruha-san, Mt. Mikuma-yama, Mt. Kashiwarayama (Awaji-Shima) [Morita et al., 2009]

【標本記録】3exs, 三原町論鶴羽山, 30-X-1999.

基産地は淡路島の論鶴羽山系で, 次種とよく似ている。

2 2. ニセフトクビナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) thorectoides* Jedlicka, 1958

【文献記録】Mont Roko Kobe [Jedlicka, 1958]

【標本記録】1ex, 豊岡市日高町蘆武岳, 1-IX-2016; 4exs, 朝来市和田山町岡, 8-III-2012, K. Ito Leg; 2exs, 多可町千ヶ峰 700m, 29-III-2008; 2exs, 多可町千ヶ峰, 29-III-2008; 1ex, 夢前町坪, 25-IV-1999; 1ex, 小野市来住, 30-XI-2008; 3exs, 加西市青野ヶ原, 21-V-1994; 1ex, 宝塚市西谷, 15-IX-2008; 1ex, 神戸市淡河, 4-III-2007; 11exs, 姫路市家島町家島, 9-IV-2019. 本州西部に分布。

2 3. コガシラナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) microcephalus* (Motschulsky, 1861)

【文献記録】氷上郡 [山本義丸, 1958]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 多可郡中町 [松尾隆人, 2003]; 淡路 Atsuhama, 神戸甲東園, 明石市松江浜, 美方町高丸山, 鉢伏山, 加古川, 篠山市笠坊, 川西市笹部, 神戸市本山 [安井・初宿, 2012]; Kakogawa Hiraoka-cho Shinzaike [吉松ほか, 2018].

【標本記録】5exs, 赤穂市千種川, 9-XII-2000; 5exs, 夢前町坪, 25-IV-1999; 3exs, 赤穂市真殿千種川, 25-VIII-2018; 2exs, 加古川市加古川, 4-IV-1993; 1ex, 南あわじ市沼島, 8-IV-2017.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 主に開放的な河川敷環境などに生息するが, 林内で見られることもある。各地で個体数が多い。

2 4. マルコガシラナガゴミムシ *Pterostichus (Rhagadus) nimbatidius* (Chaudoire, 1878)

【文献記録】Kakogawa Hiraoka-cho Shinzaike [吉松ほか, 2018].

本州に分布. この種はよく認識できていない.

25. ヨリトモナガゴミムシ *Pterostichus (Lyrothorax) yoritomus* Bates, 1873

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 篠山町雨石山 [林靖彦ほか, 1995]; 三原郡論鶴羽山 [高橋寿郎, 1998]; 扇ノ山ほか [高橋匡, 1982]; 川西市笹部, 東畦野 [安井・初宿, 2012] 【標本記録】 2exs, 新温泉町上山高原, 2-IX-2016; 3exs, 香美町ハチ北高原, 5-V-2009; 5exs, 豊岡市蘇武林道, 1-IX-2016; 5exs, 養父市氷ノ山スキー場, 2-VI-2007; 2exs, 宍粟市音水湖, 11-VIII-2016; 2exs, 宍粟市赤西溪谷, 20-VIII-2016; 1ex, 波賀町音水溪谷, 11-XI-1987; 1ex, 加美町篠ヶ峰, 8-VIII-1998; 1ex, 一宮町暁晴山 950m, 25-VII-1999; 2exs, 相生市三濃山, 16-VII-2000; 2exs, 八千代町笠形山, 6-VII-2002; 1ex, 夢前町坪, 5-V-1998; 3exs, 神河町千町峠, 16-VI-2007; 2exs, 神戸市淡河, 5-V-2016; 4exs, 神戸市道場, 4-V-2014; 4exs, 洲本市鮎屋川, 20-IX-1998.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 県内では各地に普通で, 丘陵地から標高の高い場所まで分布し, 通常は樹林の林床に生息する.

最後に, 日頃からご指導を頂いている森田誠司さん, 資料を提供して頂いた堀繁久さん, 標本を提供して頂いた新居悟さん, 春澤圭太郎さんに厚くお礼を申し上げる.

引用文献

- Bates, H.W., 1873. On the Geodephagos Coleoptera of Japan. Trans. Ent. Soc. London, Part II, 219-322.
- 土生昶申・馬場金太郎, 1972. 新潟県の歩行虫科 (オサムシ族を除く). 越佐昆虫同好会会報, 4(1):1-58.
- 伊藤勝彦, 1992. 北海道初記録のゴミムシ 1 種. 甲虫ニュース, (97):7.
- 茅野敏英, 1969. ゴミムシ類の食性. 昆虫と自然, 4(9):7-9.
- 笠原須磨生, 1985. 沖縄島のゴミムシ数種の記録. 甲虫ニュース, (79):6.
- 岸田剛二・辻啓介, 1975. 兵庫県多紀郡篠山町附近の歩行虫. きべりはむし, 4(1/2):16-25.
- 船本大智・加賀芳恵・渡辺恭平, 2010. 東京都多摩川におけるヨツボシツヤナガゴミムシの追加記録および生息環境. Kanagawa-Chuho, (172):41-42.
- 兵庫昆虫同好会事務局, 2001. 多可郡の甲虫相. きべりはむし, 29(1):10-27.
- Löbl, I. & D. Löbl, 2017. Catalogue of Palaearctic Coleoptera. 1443pp.
- 松本英明・松本俊信, 1988. ゴミムシ類 5 種の分布記録. 甲虫ニュース, (83/84):12.
- 森正人, 2000. 兵庫県のナガゴミムシ類. ねじればね, (88):6-10.

- Morita, S., 2007. Notes on the Pterostichine subgenus *Eosteropus* (Coleoptera, Carabidae) from Japan. Elytra, 35(2):407-432.
- Morita, Kurosa & Mori, 2009. *Pterostichus (Rhagadus) thorectoides* Jedlicka (Coleoptera, Carabidae) and its new relative from southwest Japan. Elytra, 37(2):207-214.
- 中根猛彦, 1963. ゴミムシ科. 原色昆虫大図鑑 II (甲虫編), 北隆館:31-36.
- 中根猛彦, 1978-1983. 日本の甲虫 (54-63). 昆虫と自然, 13(12)-18(8).
- 仲田元亮, 1978. 「能勢の昆虫」その後 1. きべりはむし, 7(1):15-17.
- 西田光康・大塚健之, 2000. 飯田高原と九粋峠で得られた甲虫類. 北九州の昆虫, 47(2):141-148.
- 小田中健, 1993. 宝塚の昆虫 II. 宝塚市.
- 大塚健志, 2005. 広島県におけるヨツボシツヤナガゴミムシ. 月刊むし, (408):43.
- 関公一, 1934. 御影町附近産の甲虫目録. 昆虫界, II(7):41-43.
- 高橋匡, 1982. 但馬地方昆虫目録 (予報第 7 報). Iratsume, 6:57-76.
- 高橋寿郎, 1998. 淡路島産甲虫目録 (1). Parnassius, 47:1-9.
- 田中和夫, 1985. ナガゴミムシ亜科. 原色日本甲虫図鑑.:105-122. 保育社.
- 辻雄介, 2011. 岩国市のヨツボシツヤナガゴミムシの記録及び生息環境. 山口のむし, (14):80-82.
- 安井通宏・初宿成彦, 2012. ゴミムシ類 -PartA-. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録 (2). 大阪市立自然史博物館, (44):6-36.
- 八木剛ほか, 2003. 砥峰高原の昆虫相. きべりはむし, 31(1):1-9.
- 山本周平・渡辺恭平, 2007. 東京都多摩川でナガサキヒメナガゴミムシを採集. 甲虫ニュース, (158):21-22.
- 山本義丸, 1958. 兵庫県氷上郡昆虫目録, 氷上の自然第 3 集. 兵庫県立柏原高等学校生物教室.
- 吉松慎一・伊藤昇・中谷至伸・吉武啓, 2018. 農業環境変動研究センター所蔵の田中和夫コレクション (昆虫綱; コウチュウ目) 標本目録. 農業環境技術研究所研究報告, (39).
- 吉武啓・栗原隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2011. 研究資料農業環境技術研究所所蔵の土生永申コレクション (昆虫綱; コウチュウ目; オサムシ科) 標本目録. 農業環境技術研究所研究報告, (28).



1. ホソツヤナガゴミムシ



2. ヨツボシツヤナガゴミムシ



3. ムネミヅマルゴミムシ



4. ツヤムネマルゴミムシ



5. ムラサキオオゴミムシ



6. アカガネオオゴミムシ



7. オオゴミムシ



8. ルイスオオゴミムシ



9. キバナゴミムシ



10. キンナゴミムシ



11. オオキンナゴミムシ



12. ヒロムネナガゴミムシ



13. アシミゾナガゴミムシ



14. トックリナガゴミムシ



15. ナガサキヒメナガゴミムシ



16. コホソナガゴミムシ



17. オオナガゴミムシ



18. オオクロナガゴミムシ



19. ヒメホソナガゴミムシ



20. ムナビロヒメナガゴミムシ



21. アワジヒメナガゴミムシ



22. ニセフトクビナガゴミムシ



23. コガシラナガゴミムシ



25. ヨリトモナガゴミムシ